

## 第9回 龍頭が滝案内

### 龍頭が滝 苦しい時でも観光資源に投資は続けられた

滝おどりが滝まつりに初めて登場したのは、昭和 26(1951)年 8 月。滝まつりにはその他にどんなイベントが行われていたのでしょうか。

掛合町広報によれば、昭和 32(1957)年 8 月 17 日は滝おどり、翌日は小学生の写生会と納涼短歌会が開かれています。児童たちは2学期、絵を学校に持参したのでしょうか。昭和 34(1959)年 8 月 17 日には、自衛隊演習、兵器展示(河原、滝付近)が行われました。自衛隊演習って、なにが行われたのでしょうか。なお、同日夜8時から、自衛隊映画と交歓会が掛合グラウンドで行われています。昭和 35、36 年には宝さがし。43 年には、掛合町観光協会から「龍頭が滝・八重滝で夏期鍛錬を！」という声掛けが行われています。夏期鍛錬ですから、キャンプなどが計画されていたのでしょうか。興味があります。その後も、魚のつかみ取りや自然観察会、出店などが行われていますが、滝おどりは毎年欠かさず行われてきました。

ここで、滝おどりが登場した昭和 20 年代の島根県の市町村の財政状況を見てみます。昭和 10(1935)年度の歳出を指数化して 100 とすると、昭和 23 年度から 26 年度までは 90 を超えることはありませんでした。しかし、昭和 27(1952)年度 114.4、28 年度 162.0、29 年度 158.1 となり、27 年度以降、歳出が著しく膨張したことがわかります。これは教育、産業、土木など様々な行政課題を解決するために、出費がかさんだことが原因でした。

合併した掛合町の昭和 29 年度の一般会計予算の決算を見ると、歳入 43,059,000 円、歳出 46,164,000 円で、3,105,000 円の赤字でした。このため、翌年度の歳入予算を繰上げ充用(前借です!)しています。こうしたなか、掛合町は地方財政再建促進特別措置法に基づき、昭和 31(1956)年 6 月 1 日に財政再建団体に指定され、昭和 31 年度から 42 年度までの 12 年間で財政の立て直しをすることとなりました。指定されると予算の大幅な削減が求められますので、町民生活にも大きな影響があったものと思われます。計画は 12 年間でしたが、実際には指定から脱却するのに 15 年間もかかりました。

一方、掛合町は昭和 34(1959)年に、新町建設計画をまとめます。34 年度から 43 年度に至る 10 年間に、町が実施する計画をまとめたものです。農地、農業、土木、商工、衛生、教育など項目は多岐に亘りますが、観光の項目を見てみると、龍頭が滝：滝おどりの指導育成、龍頭が滝集会宿舎、観光宣伝映画8ミリフィルム、案内札、はがき、案内書、と記載されています。そして 34 年度から 5 年間にわたり、毎年 240,000 円ほどの予算を、滝まつりと一式飾り(佐中えびす祭り)につけることが計画されました。

苦しい財政事情の中でしたが、掛合町の観光資源として、龍頭が滝を大きく育てようとしたのですね。